

宇佐美 さやか 対



日本共産党神奈川区事務所
横浜市神奈川区西神奈川3-2-17
電話：045-491-6843
FAX：045-491-6892
<http://www.usami-sayaka.jp//>

教員の長時間労働を解消するには 教員を増やすしかない

横浜市議会では12月6日（木）、市長が提出した議案に対する質問が行われました。

日本共産党横浜市議団を代表して、古谷やすひこ議員（鶴見区選出）が、教職員の長時間労働の改善、犯罪被害者の方への支援強化、消費税増税中止を国に求めること、市営住宅の修繕をURのように貸主負担とすること、入学準備金を実情に合わせて増やし、適正な時期に支給すること等、質問しました。

多すぎる受持ち授業数

古谷議員は、教職員の長時間労働について、やらなければならない仕事が多すぎることが問題だと述べ、教員一人あたり授業コマ数は、小学校では「5コマ」が一般的であり、「5コマ」を7時間45分の所定勤務時間で行うと、授業準備や採点、各種打ち合わせや報告書づくりなどの校務に使える時間は75分しか残らないと指摘。

これは、必ず残業をしなければならない業務量であり、教員一人当たりのコマ数を減らしていく手だてをとることが必要だと主張。

授業数減にむけ 市独自に教員加配を

その上で、コマ数を減らすには、教員を増やすことが根本的な解決方法だと強調し、8校で実施している高学年で専科の先生を入れて担任のコマ数を減らす取り組みなど、市独自の教員加配の手だてを広げるべきだと主張しました。



12月6日 本会議



教職員をふやし 異常な長時間労働の 是正を

学校をよりよい教育の場に

「学校がブラック職場になっている」——いま、教職員の長時間労働が社会問題になっています。その是正は、労働条件の改善として緊急であり、子どもの教育条件としてきわめて大切な、国民的課題です。

2017年、ついに政府も「教員の長時間勤務の早急な是正」を掲げました。しかし、その対策は肝心の教員増がないなど、不十分です。それだけに、国民、教職員が力を合わせて、国や自治体に必要な対策をとらせ、学校を安心して働き続けられる場にするのが求められています。なぜ教職員が長時間労働になったのか、どうやって打開するのか——私たちの見解と提案を發表します。

2018年11月9日に発表した日本共産党の見解・提案「教職員を増やし、異常な長時間労働の是正を—学校をよりよい教育の場に—」党中央HPIに全文

教員増の財政確保を国に求める …教育長答弁

鯉渕教育長は、「勤務時間内に教員に求められる業務を終わらせることは厳しい状況である」との認識を示しましたが、負担軽減のための市独自の教員増については、「財源確保は原則として国の責任だ」述べ、「国に対して強く要望していく」と答弁するにとどまりました。